

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 1506 号	氏名	町田 祥
学位審査委員	主査	川上 純	㊟
	副査	柳原 克紀	㊟
	副査	佐藤 泉美	㊟
論文審査の結果の要旨			
<p>1 研究目的の評価 本研究は、加齢黄斑変性 (Age-related Macular degeneration: AMD) に対する抗血管内皮増殖因子 (Vascular Endothelial Growth Factor: VEGF) 薬の硝子体への注射療法を受けた患者で発生する急性視力低下のリスク因子を評価するものであり、目的は十分に妥当である。</p>			
<p>2 研究手法に関する評価 2013 年から 2016 年の間に長崎大学病院眼科において、治療歴のない血管新生型 AMD として診断され、Treat and Extend のレジュメに則り抗 VEGF 薬の治療を受け、4 年間のフォローアップを完了した全ての患者を対象とした後ろ向きコホート研究である。前回の受診時よりも 3 段階以上の視力低下が発生した場合を急性視力低下イベントの発生と定義し、イベントの発生率と危険因子を解析するものであり、研究手法も妥当である。</p>			
<p>3 解析・考察の評価 対象は 76 人 76 眼で、急性視力低下は 4 年間で 30 眼 (39.5%) に発生した。視力低下の原因や時期は様々であったが、治療開始時点で最高矯正視力が悪いこと、黄斑部の Ellipsoid zone (視細胞の構造的な正常性の指標) の連続性の消失は将来的な視力低下イベントの発生リスクであることがわかり、AMD に対する抗 VEGF 薬の硝子体への注射療法を受けた患者で発生する急性視力低下のリスク因子に関する研究として大いに期待される。</p> <p>以上のように本論文は AMD に対する抗 VEGF 薬の硝子体への注射療法を受けた患者で発生する急性視力低下のリスク因子に関する研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士 (医学) の学位に値するものと判断した。</p>			